

# Moser–Trudinger 不等式のべき乗近似

橋詰 雅斗 (広島大・先進理工)\*

空間次元を  $N \geq 2$ ,  $B \subset \mathbb{R}^N$  を単位球,  $1 < p < N$  とし,  $W_0^{1,p}(B)$  を Sobolev 空間とする. Sobolev 不等式

$$\|u\|_{L^{\frac{pN}{N-p}}(B)} \leq S_p \|\nabla u\|_{L^p(B)}, \quad u \in W_0^{1,p}(B) \quad (1)$$

により, 連続埋め込み  $W_0^{1,p}(B) \hookrightarrow L^{pN/(N-p)}(B)$  が成立する. 一方,  $p = N$  の場合,  $W_0^{1,N}(B) \not\subset L^\infty(B)$  となるが, N. S. Trudinger[5], J. Moser[4] により次の不等式が得られている:

$$\sup_{\substack{u \in W_0^{1,N}(B) \\ \|\nabla u\|_{L^N(B)} \leq 1}} \int_B e^{\alpha|u|^{\frac{N}{N-1}}} dx \begin{cases} \leq C|B|, & \alpha \leq \alpha_N, \\ = +\infty, & \alpha > \alpha_N. \end{cases} \quad (2)$$

ここで  $\alpha_N = N\omega_{N-1}^{1/(N-1)}$  であり,  $\omega_{N-1}$  は単位球表面積を表す. Sobolev 不等式 (1) および Moser–Trudinger 不等式 (2) はそれぞれ Orlicz 空間への埋め込みの意味で最良であるため, Moser–Trudinger 不等式 (2) はしばしば臨界 Sobolev 不等式と呼ばれる. しかしながら, (1) に直接的な極限操作  $p \rightarrow N$  を施しても臨界 Sobolev 不等式 (2) は得られない. この不連続性に着目し, 本講演では  $p \rightarrow N$  とした際に (2) の汎関数に収束し, さらに集中レベルも連続的に繋がる  $W_0^{1,p}$  関数不等式を構築する.

まず, Moser–Trudinger 不等式の集中レベルについて紹介する.  $B_\varepsilon \subset \mathbb{R}^N$  を原点中心半径  $\varepsilon$  の球,

$$\mathcal{B}_N := \left\{ u \in W_{0,rad}^{1,N}(B) \mid \|\nabla u\|_{L^N(B)} \leq 1 \right\},$$

$$X_N := \left\{ \{u_n\} \subset \mathcal{B}_N \mid \lim_{n \rightarrow \infty} \|\nabla u_n\|_{L^N(B_\varepsilon)} = 1 \ (\forall \varepsilon > 0) \right\}$$

とする. このとき, 次が成立する.

$$\sup_{\{u_n\} \in X_N} \left( \limsup_{n \rightarrow \infty} \int_B e^{\alpha_N |u_n|^{\frac{N}{N-1}}} dx \right) = |B| \left( 1 + e^{\sum_{k=1}^{N-1} \frac{1}{k}} \right). \quad (3)$$

この左辺の値を Moser–Trudinger 不等式の集中レベルと呼ぶ. 右辺の具体的な値は, 以下の通り Moser–Trudinger 不等式 (2) の変分問題を考える際に重要な役割を担う:

前提として, Moser–Trudinger 汎関数は  $\alpha = \alpha_N$  において非コンパクト性 ( $W_0^{1,p}(B)$  の弱位相に関する不連続性) を持つ. つまり, ある関数列  $\{u_n\} \subset W_0^{1,N}(B)$  で

$$\|\nabla u_n\|_{L^N(B)} \leq 1, \quad u_n \rightharpoonup u_0 \text{ weakly in } W_0^{1,N}(B)$$

を満たし,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_B e^{\alpha_N |u_n|^{\frac{N}{N-1}}} dx \neq \int_B e^{\alpha_N |u_0|^{\frac{N}{N-1}}} dx$$

となるものが存在する (Fatou の補題より, “ $>$ ” となることも分かる). この性質により, (2) の達成可能性は非自明なものとなっている. 実際, (2) の最大化問題に関して, 最

本講演は猪奥倫左氏 (東北大学) との共同研究に基づく.

\* e-mail: mhashizume@hiroshima-u.ac.jp

大化列の部分列が上記の性質を満たすか否かで最大化関数の存在・非存在が変わる。しかし、このような非コンパクト性がありながらも、Carleson–Chang[1]は、以下の二つを示すことにより(2)を達成する最大化関数の存在を示した(球対称再配列の議論により、 $W_{0,rad}^{1,N}(B)$ の中で考察すれば十分ということに注意する)。

(I) (2)の最大化関数が存在しないならば、全ての最大化列は $X_N$ の元。さらに、

$$\sup_{\substack{u \in W_{0,rad}^{1,N}(B) \\ \|\nabla u\|_{L^N(B)} \leq 1}} \int_B e^{\alpha_N |u|^{\frac{N}{N-1}}} dx \leq |B| \left(1 + e^{\sum_{k=1}^{N-1} \frac{1}{k}}\right).$$

(II) ある関数 $w \in W_{0,rad}^{1,N}(B)$ が存在して、

$$\int_B e^{\alpha_N |w|^{\frac{N}{N-1}}} dx > |B| \left(1 + e^{\sum_{k=1}^{N-1} \frac{1}{k}}\right).$$

その後、de Figueiredo–do Ó–Ruf[2]によって、右辺の値は(3)の集中レベルそのものであることが明らかにされた。

次に、本講演で考察する関数を定義する。

**定義 1** 関数 $F_p : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}_+$ を次で定義する。

$$F_p(s) := \left[1 + \frac{N-p}{N(p-1)} \alpha_p |s|^{\frac{p}{p-1}}\right]^{\frac{N(p-1)}{N-p}}, \quad \alpha_p := \left(\alpha_N^{\frac{N-1}{N}} |B|^{\frac{1}{p} - \frac{1}{N}}\right)^{\frac{p}{p-1}}.$$

ただし、 $|B|$ は単位球 $B \subset \mathbb{R}^N$ のLebesgue測度を表す。

関数 $F_p$ に関して、Sobolev不等式(1)と直接計算により次が成り立つ。

**命題 1** (I) ある定数 $C_p > 0$ が存在して、任意の $u \in C_0^\infty(B)$ に対して

$$\int_B F_p(u/\|\nabla u\|_{L^p(B)}) dx \leq C_p.$$

(II) 任意の $u \in C_0^\infty(B)$ に対して

$$\lim_{p \rightarrow N} \int_B F_p(u/\|\nabla u\|_{L^p(B)}) dx = \int_B e^{\alpha_N (|u/\|\nabla u\|_{L^N(B)})^{\frac{N}{N-1}}} dx.$$

命題1により、関数 $F_p$ はSobolev型不等式の性質を満たし、Moser–Trudinger型汎関数に関する一つの近似となっている。

**定義 2** 集合 $\mathcal{B}_p \subset W_0^{1,p}(B)$ および集中列の集合 $X_p$ を

$$\mathcal{B}_p := \{u \in W_{0,rad}^{1,p}(B) \mid \|\nabla u\|_{L^p(B)} \leq 1\},$$

$$X_p := \left\{ \{u_n\} \subset \mathcal{B}_p \mid \lim_{n \rightarrow \infty} \|\nabla u_n\|_{L^p(B_\varepsilon)} = 1 \ (\forall \varepsilon > 0) \right\}.$$

で定義する。

主結果は次の集中レベルの連続性である。

定理 2 次が成立する.

$$\sup_{\{u_n\} \in X_p} \left( \limsup_{n \rightarrow \infty} \int_B F_p(u_n) dx \right) \rightarrow |B| (1 + e^{\sum_{k=1}^{N-1} \frac{1}{k}}) \quad (p \rightarrow N).$$

最後に, 関数  $F_p$  が現れる不等式を紹介する.  $u \in W_{0,rad}^{1,N}(B)$  に対して, Alvino 不等式 または radial lemma と呼ばれる次の不等式

$$|u(x)| \leq \alpha_N^{-\frac{N-1}{N}} \left( N \log \frac{1}{|x|} \right)^{\frac{N-1}{N}} \|\nabla u\|_{L^N(B)}$$

が知られている. これは

$$e^{\alpha_N (|u(x)| / \|\nabla u\|_{L^N(B)})^{\frac{N}{N-1}}} \leq \frac{1}{|x|^N}$$

と同値である. ここで左辺に Moser–Trudinger 不等式の関数が現れる. 同様に,  $u \in W_{0,rad}^{1,p}(B)$  に対して radial lemma を考えると

$$F_p(u(x) / \|\nabla u\|_{L^p(B)}) \leq \frac{1}{|x|^N}$$

となり, 左辺に  $F_p$  が現れる.

講演では定理 2 の証明の概略と,  $\int_B F_p(u) dx$  が持つ幾つかの性質についても述べる.

## 参考文献

- [1] L. Carleson, S.-Y. A. Chang, *On the existence of an extremal function for an inequality of J. Moser*, Bull. Sci. Math. (2) **110** (1986), no. 2, 113–127.
- [2] D. G. de Figueiredo, J. M. do Ó, B. Ruf, *On an inequality by N. Trudinger and J. Moser and related elliptic equations*, Comm. Pure Appl. Math. **55** (2002), no. 2, 135–152.
- [3] M. Hashizume, N. Ioku,  *$W^{1,p}$  approximation of the Moser–Trudinger inequality*, arXiv:2212.02086.
- [4] J. Moser, *A sharp form of an inequality by N. Trudinger*, Indiana Univ. Math. J. **20** (1970/71), 1077–1092.
- [5] N. S. Trudinger, *On imbeddings into Orlicz spaces and some applications*, J. Math. Mech. **17** 1967 473–483.